



コップフ、マルクス Kopf, Markus

俳優 / 演出家 / 朗読者

1958年ブレーメン出身。父親はオペラ指揮者、母親はメゾソプラノ歌手と音楽的一家に次男として生まれる。

スイス・チューリッヒ「演劇アカデミー」にて演劇を学んだ後、北ドイツ・キール市立劇場にて若手俳優としてデビュー。その後、カストロプ・ラウクセルにあるウェストファーレン地方劇場、引き続きオーバーハウゼン歌劇場にて俳優として活躍後、1987年、オルデンプルク歌劇場に俳優兼演出助手として活動の場を移した。90年、同劇場での初めての演出を皮切りに、ブレーマーハーフェン、リュベック、クライスト歌劇場（フランクフルト / オーデル）やハンブルクのテアター・イン・ツィンマーに客演する。

1993年から95年まで専属演出家として、ロストックフォルクス劇場、95年からはビーレフェルト歌劇場に所属。2000年より12年間に渡ってミュンスター歌劇場の演出部長を務めた。ミュンスターで手がけた主要作品には、ブレヒト / ワイルの「三文オペラ」、シラーの「たくらみと恋」、シェイクスピアの「リチャードⅢ世」、並びにゲーテの「ファウストⅠ部、Ⅱ部」などが挙げられる。

そのほか、2010年、アーヘン歌劇場にてソポクレス作「アンティゴネ」、2年後、クライストの「壊れた甕」を客演出。13年には、ノイシュトレリッツ地方劇場にて、モーツァルトのオペラ「魔笛」の演出を手がける。同年より、フリーランスの演出家となる。

1999年から2005年まで、オスナブルック単科大にて舞台芸術の講師を務める。09年にプロスケニオン財団の講師として招かれ、同財団の舞台芸術教育フォーラムの会員となる。12年からは、ミュンスターのヴィルヘルム音大の講師として、オペラの演技指導に当たる。

日本での活躍は、まず1993年。ロストック劇場制作のハイナー・ミュラー作「四重奏」日本シアターカイ引越し公演に参同。東京室内歌劇場主催、カン・スキ作曲オペラ「超越」世界初演の演出（指揮は天沼裕子）、1999年には静岡音楽館 AOIにて、2006年には石川県金沢市民オペラの招きで天沼編曲・指揮によるモーツァルトのオペラ「魔笛」の演出を手がけた。

またこのほか、2013年、東京・両国シアターカイにて、ブレヒト / ワイルの「三文オペラ」のワークショップの指導に当たる。14年には「ラ・カーザ・デル・チエーロ輪音の里」 in Wajima 主催によるオペラ歌手対象のセミナー、そして両国シアターカイにて、ブレヒト

/ワイルのオペラ「マハゴニー市の興亡」を題材としたワークショップの指導を務める。

作曲家武満徹氏、ドイツ文学者の岩淵達治（いずれも故人）とは永きに渡り交友関係にあった。

連絡先 info@markuskopf.de 日本語可